

様式1 ※【事業助成部門】の様式です。必ずご記入ください。**第10回「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」市民団体助成プログラム 助成申請書**

事業助成部門(助成額:最大100万円/年)

2018年10月20日

阪急阪神ホールディングス株式会社に対し、つぎのとおり申請します。

団体名	ミライノユメ	代表者名	町野 未来
-----	--------	------	-------

**申請分野**

※AかBのいずれかを選択して「○」をつけてください。活動分野がまたがる場合は、主に取り組んでいる分野に「◎」を、その他の分野に「○」をつけてください。

<input type="radio"/>	A 地域環境づくり	<input checked="" type="radio"/>	B 次世代の育成
-----------------------	-----------	----------------------------------	----------

助成申請額

※今年度希望する助成申請額をご記入ください(最大100万円)。

100万 円

団体情報・連絡先

団体の事務所 所在地 ※個人宅の場合は、宛名 までお書きください。	〒530-0012 大阪市北区芝田 1-16-1	
	TEL 06-6373-0000	FAX 06-6373-0000
	e-mail △△△@●●●●	
書類送付先 ※個人宅の場合は、宛名 までお書きください。	〒 同上	
	ふりがな まちの みらい	
担当者	氏名 町野 未来	
	TEL 06-6373-0000	FAX 06-6373-0000
	携帯電話 090-0000-0000	e-mail △△△@●●●●

提出書類 (各1部ずつご提出ください)

※↓ 提出する書類に○印をつけてください。a~gは提出必須です。

<input type="radio"/>	必須	a 助成申請書(様式1、様式2)	<input type="radio"/>	必須	f 直近の貸借対照表(作成している団体のみ)
<input type="radio"/>	必須	b 団体概要(パンフレット、HPなど)	<input type="radio"/>	必須	g 直近の財産目録(作成している団体のみ)
<input type="radio"/>	必須	c 組織の規約を示すもの(定款・会則等)	<input type="radio"/>	任意	h 直近の事業計画書
<input type="radio"/>	必須	d 直近の事業報告書(過去1年以上の活動履歴がわかる資料)	<input type="radio"/>	任意	i 直近の予算書
<input type="radio"/>	必須	e 直近の決算書(過去1年以上の収支がわかる資料)	<input type="radio"/>	任意	j ニュースレターやチラシなど

[記入上の注意]

1. 申請書は、**すべて片面印字・A4サイズ**としてください。**提出部数は1部**です。
2. 各様式に必要な情報を記載し、**指定の分量(様式1・2・3あわせて最大7ページ)の範囲でまとめてください**。各記入欄の大きさは適宜変更しても構いませんが、読みやすくまとめてください。
3. 応募書類は返却できませんので、必ず控えをお取りください。
4. 提出書類は全て、**ホッチキス留めではなく、クリップ留めにしてください**。

1 ※各記入欄の幅は伸縮して構いませんが、指定の分量(様式1・2・3あわせて最大7ページ)の範囲で、読みやすくまとめてください。

様式2

ふりがな	みらいのゆめ
団体名	ミライノユメ
主な事業内容 (50字程度)	地域の子どもたちが、孤立することなく豊かな人間関係の中で過ごせる社会を目指し、居場所づくりを実施。
URL	http://www.nobinobi_hiroba.ne.jp/
団体設立	西暦 2010年 7月 設立 ※2016年3月以前に設立した団体が対象です。

1. 団体概要

①団体の設立の経緯、および目的をお書きください。
学齢期の子どもたちを対象に、学校が終わった後の夕方の居場所をつくるために、保護者が中心となって2010年に団体を設立し、のびのび広場事業・のびのび冒険事業を開始。2015年度には、まだ保護者が帰っておらず、一人もしくは子どもだけで食事をとっている子どもたちなどを対象に、地域のみんなで食事を作り、食べる、子ども食堂事業を開始。また、長期休みの間に生活が崩れがちな子どもたちが多く、学習も遅れがちな子どもたちがいることから、長期休みの期間の学習支援事業を2017年度より開始した。地域の子どもを地域で育てることを大事にし、親も子も孤立することなく豊かな人間関係の中で過ごせることを目指し、小学校に併設されている学童とは違う居場所の機能を担う事業を実施している。
②直近2年間の主な活動内容、その実施地域、および実績についてお書きください。
【2018年度】(予定も含む。ただし、「予定」であることが分かるように明記してください) ・のびのび広場事業、冒険事業: 平日、保護者の帰りが遅い子どもたちを対象とした居場所事業、および外遊び事業。西宮市内、宝塚市内の2箇所各週2日間ずつ実施。2018年度はのべ約1,200人が参加予定。 ・のびのび食堂事業: 一人、もしくは子どもだけで夕食をとる子どもたちなどを主な対象とした食堂事業。西宮市内、宝塚市内の2箇所各週2日間ずつ実施。2018年度はのべ約800人が参加予定。 ・のびのび学習事業: 長期休みに、宿題やこれまでの復習、学習の遅れなどをサポートする学習支援事業。西宮市内、宝塚市内の2箇所年間20日間ずつ実施。2018年度はのべ約300人が参加予定。
【2017年度】 ・のびのび広場事業: 平日、保護者の帰りが遅い子どもたちを対象とした、放課後の時間を過ごす居場所事業。西宮市内、宝塚市内の2箇所各週2日間ずつ実施。2017年度はのべ約1,000人が参加。 ・のびのび冒険事業: 広場事業に集まる子どもたちを対象とした、月1回の外遊び事業。西宮市内、宝塚市内の2箇所月1回ずつ実施。2017年度はのべ約300人が参加。 ・のびのび食堂事業: 一人、もしくは子どもだけで夕食をとる子どもたちなどを主な対象として、地域のみんなで食事を作り、食べる食堂事業。西宮市内、宝塚市内の2箇所各週2日間ずつ実施(のびのび広場事業と同日)。2017年度はのべ約700人が参加。 ・のびのび学習事業: 2017年度からスタートした新規事業で、夏休みなどの長期休みに、宿題やこれまでの復習、学習の遅れなどをサポートする学習支援事業。西宮市内、宝塚市内の2箇所各年間20日間ずつ実施。2017年度はのべ約200人が参加。
③ ②の活動によって、社会や活動の参加者がどのように変化しましたか？
・参加者である子ども達の安心感の醸成 団体の活動に参加した当初は、感情表現も言葉数も少なかった子ども達が、参加回数を重ねるごとに笑顔が増え、コミュニケーションをとってくれるようになった。子ども達からも、「ここに来たら、安心して遊べる」「家族みたい」といった感想が寄せられており、子ども達の居場所をつくり、安心感を醸成できたと考える。
・コミュニティで子ども達を育てる意識の向上 地域のボランティアの方々に活動に協力してもらうことで、団体の活動日以外でも、ボランティアの方が近所に住む子ども達を日頃から気にかけて、困りごとなどをサポートする関係を構築することができ、地域コミュニティで子ども達を守り、育てる意識を向上させる一助となった。

④今までに受けた助成金、主な受賞歴をお書きください。
<ul style="list-style-type: none"> ・2017年度:西宮市地域活性化支援事業助成(20万円) ・2015年度:地域づくりNPO助成(50万円)

2. 団体の運営体制

①代表者			
代表者氏名	ふりがな まちの みらい 町野 未来	役職	理事長
代表者略歴	〇〇大学△△学部卒。□□(株)在職中の1980年から地域の子ども達の支援に携わる。2010年当団体の立ち上げに関わり、専従スタッフに。		住所(市区町村のみ) 大阪市
②役員・会員名(5名まで、代表者以外をお書きください)			
役職	氏名	他の活動団体・所属団体等	住所(市区町村のみ)
副理事長	阪急 歌子	〇〇大学非常勤講師	豊中市
理事	阪神 虎夫	△△環境委員会理事	大阪市
理事	阪急 鉄子	会社員	京都市
会員	阪神 鉄郎	特定非営利活動法人□□理事	神戸市
会員	阪急 夢	会社員	大阪市
③会員数等			
会員数	400人 / 5社・団体		
ボランティア数	30人		
事務局スタッフ数 ※有償無償問わない	5人(内、専従者数 2人)		

様式3

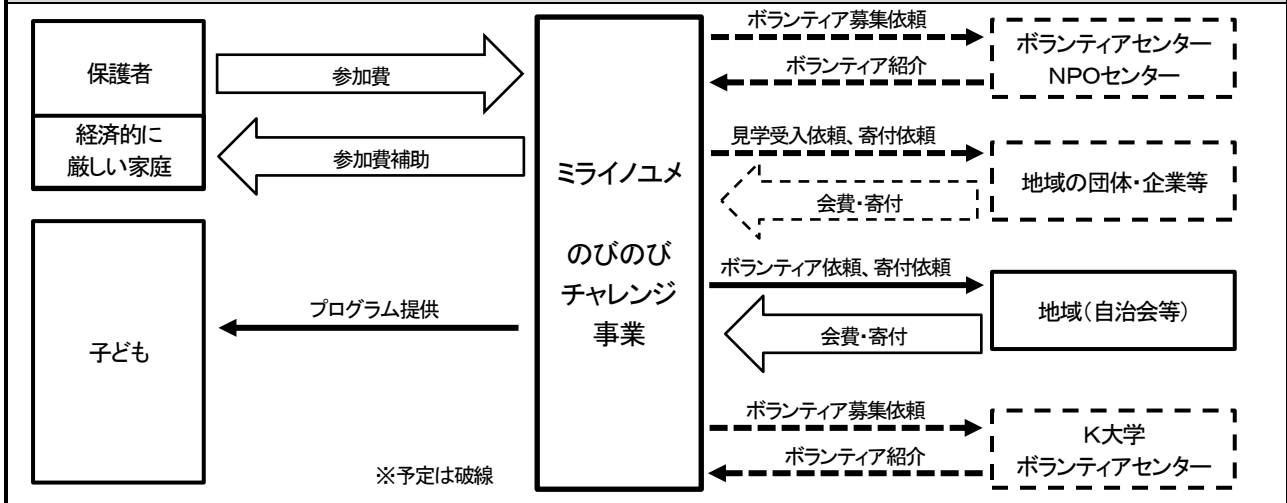
1. 申請事業の内容

①事業名称をお書きください(50字以内)。
のびのびチャレンジ事業による子どもの将来の夢応援プロジェクト
②事業概要をお書きください(150字以内)。
社会的な体験をする機会が少ない子どもたちを主な対象とし、子どもたちが夢を持って将来を描けるようにするため、地域の団体・企業等の協力を得て、将来生きていく上で必要なことを学び、子どもたち自身の将来像を描けるような大人と出会うなど、様々な社会体験をする場を創出する。
③事業の目的をお書きください。
これまで7年間にわたり、子どもたちの放課後の居場所事業や外遊び事業、食堂や学習支援などを行ってきたが、それらの利用者の半数近くがシングルマザー、シングルファーザーの家庭である。シングルの家庭の多くは、仕事と家事に追われ、休日にも経済的事情や仕事の疲れなどから、親子での外出も少ないという現状があり、例えば、電車やバスに乗る、お店で買い物をする、習い事をする、野外活動(自然遊びやキャンプなど)をするなど、社会的な経験が圧倒的に少ないことが分かってきた。 そこで、地域の団体、企業等と連携し、様々な社会体験をする場をつくり出し、子どもたちが将来生きていく上で必要なことを学んだり、将来の選択肢が増えるような体験をしたり、子どもたち自身が将来像を描けるような大人との出会いの場とすることを目的とする。
④事業を実施する地域すべてを○で囲んでください。その他の地域での実施があればお書きください。
【沿線地域】京都市、向日市、長岡京市、大山崎町、大阪市、豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、神戸市、尼崎市、 西宮市 、芦屋市、伊丹市、 宝塚市 、川西市、猪名川町
【その他の地域】国内(都道府県)：なし、海外：なし
⑤事業について、具体的な事業内容、事業の目標と成果、効果、助成金の使途などをお書きください。 ※事業が複数年にわたる場合は、最大3年分をお書きください(1年度目を重点的に。2・3年度目は概要で可)。 ※成果・効果は、生み出そうとする事業の成果物や、波及効果の定性的定量的な目標等、具体的にお書きください。
【2019年度(1年度目)】
■事業内容
○プログラム①「クラブ活動」(毎週、または隔週など)：地域の得意分野を持つボランティアに協力いただき、サッカー・ダンス・そろばん・習字などの「習い事」を定期または不定期で実施。一般的な習い事は、月謝が高かったり、送り迎えができないなどの理由で通うのが難しいため、日ごろ通っている場所で実施することで参加しやすくなる。
○プログラム②「会社見学」(年3回程度)：地元の企業に協力いただき、会社見学を行う。様々な部署や工場等を見学し、多くの人の協力で商品・サービスが成り立っていることを知り、子どもたち自身の将来を描く参考としてもらう。
○プログラム③「買い物・調理体験」(月2回程度)：食堂事業で提供するメニューに必要な材料を洗い出し、お店・スーパーへ買い物に行き、一緒に調理も行う。一人で過ごすことの多い子どもたちが調理できるかどうかは、子どもたち自身の食生活に大きな影響を与えるため、自分自身で作れるようになることを目標とする。
○プログラム④「補習塾」(毎週)：これまで長期休みに限定して実施していた学習支援を定期的に行う。子どもたち自身が将来の夢を持ち、それを実現させるには、一定の学力が必要となってくるため、学習支援にも力を入れる。
※対象は、シングル家庭に限定すると人の目を気にして参加できない可能性があるため、限定せずに募集を行う。
※参加費は基本的に有料とする。ただし、シングル家庭は経済的に厳しい場合が多いため、参加のハードルを下げるために、一定の基準を満たした場合は参加費補助の仕組みを設ける。
■事業の目標、成果、効果
【目標】今後3年間で、地域に住む子どものべ1,000人がプログラムに参加し、様々な社会的な体験をする。
【成果】プログラムに参加した子どもたちが、いろんな大人と出会い、夢を持って将来を描けるようになる。
【効果】子どもたちが成長して大人になり、夢を実現させることで経済的に厳しい状況から脱することができる。
■助成金の使途
①「クラブ活動」を実施するための、道具やユニフォーム等の備品の購入
②「補習塾」を実施するための、机・椅子等の備品の購入
③シングル家庭の参加費補助

【2020年度(2年度目)】 事業助成の希望なし(←事業助成の希望がない場合は、印をご記入ください)
 ■事業内容:1年度目の事業に加え、プログラムの拡大、およびシングル家庭の参加費補助を捻出するための取り組みを実施する。会員制度の整備や寄付募集などを行い、継続的に事業を実施できるようにする。
 ■助成金の使途:
 ①会員や寄付募集のためのチラシ作成費など
 ②シングル家庭の参加費補助として

【2021年度(3年度目)】 事業助成の希望なし(←事業助成の希望がない場合は、印をご記入ください)
 2年度目で事業を支える基礎を作り(会員、寄付等)、3年度目以降は自主事業として展開する予定。

⑥事業について、事業実施にあたり目標とする人(組織)・お金(資金)の流れや、連携・協力先(人・組織)の関与などがわかるよう図示してください(予定も含む。ただし、「予定」であることが分かるように明記してください)。
 ※「ビジネスモデル」のイメージでお書きください。手書き可。



⑦上記の図の中で、主な連携・協力先(人・組織)を抜き出してお書きください(予定も含む。ただし、予定であることが分かるように明記してください)。

団体・氏名・役職等	事業での役割	協力内容
〇〇自治会会長 〇〇氏 株式会社△△(予定) K大学ボランティアセンター(予定)	運営委員 事業受入れ ボランティア募集	団体の運営委員として事業運営に参加 会社見学の受入れ先の1つ ボランティア募集協力

2. 申請事業のスケジュール

事業の実施スケジュールをお書きください。※事業が複数年にわたる場合は、最大3年間分をお書きください(1年度目を重点的に。2・3年度目は概要で構いません)。

時期	内容
【2019年度(1年度目)】	
4月	プログラム④「補習塾」の備品等購入。事業スタート(毎週実施)。
5月	プログラム①「クラブ活動」の備品等購入。事業スタート(毎週、または隔週等で実施)。 プログラム③「買い物・調理体験」事業スタート(月2回程度実施)。
7月	夏休み期間中に、プログラム②「会社見学」実施。 受入れ企業の調査など。
10月	上半期の事業の振り返り。
12月	冬休み期間中に、プログラム②「会社見学」実施。
1月	次年度の計画策定。
3月	春休み期間中に、プログラム②「会社見学」実施。

【2020年度 (2年度目)】 4～6月 7月 8月～	<input type="checkbox"/> 事業助成の希望なし(←事業助成の希望がない場合は、 <input checked="" type="checkbox"/> 印をご記入ください) 会員制度の整備、寄付募集の枠組みづくりの検討 チラシ、パンフレット等の作成 広報など
【2021年度 (3年度目)】	<input checked="" type="checkbox"/> 事業助成の希望なし(←事業助成の希望がない場合は、 <input checked="" type="checkbox"/> 印をご記入ください)

3. 申請事業の予算計画

※事業が複数年にわたる場合は、最大3年間分をお書きください。申請事業の総額をお書きください。なお、収入総額と支出総額は同額にしてください。

※自己資金比率に制限はありませんが、将来的な事業の継続性を考慮し、計画してください。

【2019年度(1年度目)】

収入	種類	摘要(内訳・算出根拠)	金額(円)
	本助成・申請金額	備品購入、参加費補助として	1,000,000
事業収入(参加費等)[A]	参加費収入(@500*4人*のべ200回)	400,000	
自己資金[B]		0	
収入総額[C]			1,400,000
自己資金比率: (事業収入[A]+自己資金[B]) / 収入総額[C] × 100			28.6%
支出	科目	摘要(内訳・算出根拠)	金額(円)
	人件費	「補習塾」の講師料として(@1,000*3人*のべ50回)	150,000
	賃借料	家賃負担なし、水光熱費	120,000
	物品購入費	机、椅子、ユニフォーム等の備品	600,000
	印刷費	チラシやパンフレットの印刷等	10,000
	通信費	電話、FAX代等	10,000
	交通費	スタッフ、ボランティアの交通費	50,000
	謝礼金	一部の講師分	60,000
	その他	シングル家庭への参加費補助(@500*4人*のべ200回)	400,000
支出総額			1,400,000

【2020年度(2年度目)】 事業助成の希望なし(←事業助成の希望がない場合は、印をご記入ください)

収入	種類	摘要(内訳・算出根拠)	金額(円)
	本助成・申請金額	チラシデザイン発注・印刷費、参加費補助として	500,000
事業収入(参加費等)[A]	参加費収入(@500*5人*のべ200回)	500,000	
自己資金[B]	会費、寄付など	300,000	
収入総額[C]			1,300,000
自己資金比率: (事業収入[A]+自己資金[B]) / 収入総額[C] × 100			61.5%
支出	科目	摘要(内訳・算出根拠)	金額(円)
	人件費	「補習塾」の講師料として(@1,000*3人*のべ50回)	150,000
	賃借料	家賃負担なし、水光熱費	120,000
	物品購入費	消耗品等	10,000
	印刷費	チラシやパンフレットのデザイン、印刷等	400,000
	通信費	電話、FAX代等	10,000
	交通費	スタッフ、ボランティアの交通費	50,000
	謝礼金	一部の講師分	60,000
	その他	シングル家庭への参加費補助(@500*5人*のべ200回)	500,000
支出総額			1,300,000

【2021年度(3年度目)】 事業助成の希望なし(←事業助成の希望がない場合は、印をご記入ください)

収入	種類	摘要(内訳・算出根拠)	金額(円)
	本助成・申請金額		
	事業収入(参加費等)[A]		
	自己資金[B]		
収入総額[C]			
自己資金比率: (事業収入[A]+自己資金[B]) / 収入総額[C] × 100			%
支出	科目	摘要(内訳・算出根拠)	金額(円)
	人件費		
	賃借料		
	物品購入費		
	印刷費		
	通信費		
	交通費		
	謝礼金		
	その他		
	支出総額		

4. 申請事業と「未来のゆめ・まちプロジェクト」および「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連

申請事業が、沿線地域の「未来にわたり住みたいまち」づくりにどのように寄与するのか、「未来のゆめ・まちプロジェクト」の重点領域(募集要項の6ページ参照)を踏まえたうえで、SDGs(募集要項の7ページ参照)を意識して、自由にお書きください。

親の経済力や子どもが置かれている環境等にかかわらず、子どもが様々な社会経験を積み、学び、地域の人に支えられて生きることができるまちは、子を想う親にとっても、子どもにとっても魅力的に感じ、住み続けたいと感じるといえる。また、親の経済的な事情などにかかわらず学びの機会を提供する本事業は、SDGsの目標4「すべての人々に質の高い教育を」に合致し、本事業を通して自治会・企業・学校等とともにつくりだしているコミュニティは、目標11を目指す包摂的で持続可能な都市といえる。

5. アンケートのご協力をお願い

阪急阪神 未来のゆめ・まち基金をどこで知りましたか? 当てはまるもの全てに○印・記述をお願いします。

1. 電車の中吊りポスター	2. ちらし	(設置場所は? ・駅 ・その他 [大阪ボランティア協会])
3. 情報誌 (名称は? ・『TOKK』 ・その他[])		
4. ホームページ (どこのホームページ? ・阪急阪神ホールディングス ・その他[])		
5. メールマガジン (どこのメルマガ?)	6. 知人に聞いて (誰から?)	

助成申請書の提出締め切りは、2018年10月23日(火)17時です。(助成事務局必着)

※情報の取扱いについて: 提出いただいた資料に記載された個人情報、本事業の主催者(阪急阪神ホールディングス株式会社)及び助成事務局(社会福祉法人大阪ボランティア協会)において管理し、本事業運営・審査・団体への連絡に使用します。この用途以外に使用することはありません。